



山口蓬春記念館は、日本画家・山口蓬春^{ほうしゅん}が、昭和23年（1948）から亡くなる昭和46年（1971）までの約23年間を過ごした画屋と邸宅です。平成2年（1990）に公益財団法人 JR 東海生涯学習財団が未亡人の春子夫人より土地・建物・美術品の遺贈を受け、平成3年（1991）10月15日に開館しました。

現在の建物は、昭和初期の建設と考えられ、戦時中には「会社の寮（保養施設）」であったといわれています。蓬春は昭和23年（1948）に建築家・吉田五十八^{いっちはや}の助言もあり、愛用していたドイツ製カメラ「ライカ」一式を売却することでこの邸宅を手に入れました。その後も五十八によって昭和28年（1953）の新画室の増築、昭和32年（1957）には母屋の一部増改築が行われています。

また、昭和35年（1960）には岩城造園によって庭が造園され、夫人の丹念な手入れにより、四季折々に蓬春の目を楽しませ、時にはその植物がモチーフになるような端正な庭となっていました。

夫妻の美意識によって整えられた邸宅は、蓬春の芸術院会員、文化勲章受章といった画壇での華々しい活躍を支え、また多くの文化人等が訪れる場所となりました。

蓬春亡き後、その画業や生涯を偲ぶ上でかけがえのない邸宅は、春子夫人によって守られてきましたが、その意志は公益財団法人 JR 東海生涯学習財団に受け継がれ、建築家・大江匡^{たけむら}の改築により、従来の木造建築を活かしつつ近代性を兼ね備えた記念館として生まれ変わりました。本館は、日本画家・山口蓬春と2人の建築家の感性が世代を超えて融合した場所ともいえるのです。

（2018年9月現在）

所在地 葉山町一色 2320

建物概要

- ・構造 木造2階建
- ・屋根 切妻屋根（一部入母屋屋根）
日本瓦（一部銅板葺）
- ・外壁 リシン

建築面積 320.72 m²

建築年

- 母屋（2階建て） 昭和初期頃
- 新画室の増築 昭和28年（1953）
- 母屋の一部増改築 昭和32年（1957）
- 風呂場の増築 昭和40年（1965）

設計

- 母屋（2階建て） 不明
- 新画室の増築、母屋の一部増改築 吉田五十八
- 風呂場の増築 不明

施工

- 母屋（2階建て） 不明
- 新画室の増築、母屋の一部増改築、風呂場の増築 水澤工務店

施主

- 昭和23年（1948）以前 不明
- 山口蓬春 昭和23年（1948）～昭和46年（1971）
- 山口春子 昭和46年（1971）～平成3年（1991）
- 公益財団法人 JR 東海生涯学習財団 平成3年（1991）～現在

居住者履歴

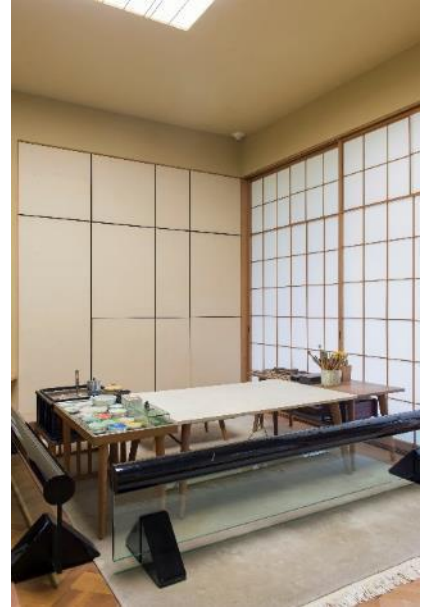
- 昭和23年（1948）以前 不明
- 山口蓬春 昭和23年（1948）～昭和46年（1971）
- 山口春子 昭和23年（1948）～平成3年（1991）

管理者 公益財団法人 JR 東海生涯学習財団

交通

JR 横須賀線・湘南新宿ライン「逗子駅」より京浜急行バス3番乗場又は京浜急行線「新逗子駅」南口2番乗場より「海岸回り葉山行（逗12）」か「海岸回り葉山福祉文化会館行（逗11）」にて約18分「三ヶ丘・神奈川県立近代美術館前」下車徒歩2分。

※専用駐車場はないため、周辺の駐車場をご利用ください。



Gallery

